

平成26年度授業づくり拠点校（活用力研究事業・中学校国語）実践事例

柳井中学校 研修主題

自分の思いや考えをもち、意欲的に学び続ける生徒の育成
～「言語活動の充実」をとおして～

国語科の研修重点

言葉に注目し、自分の思いや考えを表現できる授業の工夫
活用力の育成（言語活動の充実）の視点

- ・自分の思いや考えを表現し、他者と交流することで理解を深める授業
- ・根拠をもって筋道を立てて思考する授業

1 研究にあたって

「身に付けさせたい力（活用力）」の洗い出しと授業の構想

○ 全国学力・学習状況調査に見られる課題

【国語A・B】問題から見られた課題

全国学力・学習状況調査の結果、本校は、国語A・B問題ともに好成績を収めた。しかし、その中でいくつかの課題が見られた。まずA問題では、辞書を活用して、語句の意味を理解したり、文脈の中で適切に使ったりする力については、十分には身に付いていないことがわかった。また、B問題では、自分で資料を読み、複数の情報を比較して読み取る力が十分ではないことがわかった。

【質問紙】および授業評価に見られる課題

学力調査では、「聞くこと・話すこと」「書くこと」については好成績を収めたが、生徒の意識としては、書くことには抵抗があり、自分の意見を他の人に説明したり、文章を書いたりすることは難しいと感じている。さらに、うまく伝わるように組み立てを工夫したり、根拠や理由を挙げて説明することができていないと感じている。これらのことは、生徒による授業評価の項目で、「自分の意見を書いたり、発表したりする力が高まったと思える」並びに、「コミュニケーション力（聞く・伝え合う・話し合うなど）が身に付いたと思える」が低いことにもつながっている。これは、校内の課題としてあげられることである。

そこで、授業の中で自分の考えを表現させ、他者と交流させることで、上記の課題を改善したいと考えた。全国学力・学習状況調査の結果は3年生の実態であるが、本校生徒の課題は全学年に共通しているといえる。これらの課題を解決することをめざし、研究に取り組むことを共通理解して、本研究をスタートさせた。

○ NRT（集団基準準拠検査）の結果から見られる課題

5月にNRTを実施し、その結果から、1年生の課題として以下に示す領域、項目が課題として浮かび上がった。

- 課題のある『中領域』
 - ・文学的な文章を読むこと ・説明的な文章を読むこと
 - ・表現の効果を確かめ、正しく書くこと
- 課題のある『小領域』
 - ・要点をまとめる ・推敲、文末表現 ・場面読み取り
 - ・文章の構成理解 ・段落の構成理解 ・適切な話し方

漢字や語句、適切に話す・聞く、など、基礎・基本の習得については安定した数値である。しかし、「読むこと」（読解力）については多くの課題が見られた。

そこで、「読むこと」の指導に焦点をあてた授業を考えた。そして、今回の授業で生徒に身に付けさせたい力を、以下のように設定した。

身に付けさせたい力

目的に応じて必要な情報を読み取る力や文章の構成や趣旨を読み取る力

2 公開授業 国語科学習指導案

第 1 学年 国語科学習指導案

日 時 平成 26 年 11 月 14 日

場 所 1 年 5 組 教室

指導者 加 藤 薫 子

(1) 単元名 構成や展開をつかむ

教材名 「身近な虫たちの華麗な生きかた」 稲垣栄洋著（ちくま文庫）

(2) 指導の立場（単元構成の意図）

① 生徒観

段落ごとの構成や文章全体の流れを意識していない生徒がいる。

各種学力調査から見られる様々な課題を克服するため、授業の方向性を考えた。その中でも、「目的に応じて必要な情報を読み取る力や文章の構成や趣旨を読み取る力」に課題があり、この力を身に付けさせたいと考えて授業を構想した。

さて、課題作文に取り組んだときのことである。段落ごとの構成や文章全体の流れを考えて書く意識が低い生徒が見られた。一文ごとに改行したり、あちらこちらに話がとんだりする生徒に、内容をまとめ、段落意識をもって書くように指導すると、表現が改善された。今回の読むことの指導をとおして、生徒に文章全体の構成や論の展開を意識させることで、自分で文章をよりよく推敲できるようになることにもつながると思われる。

② 教材観

身近な話題で抵抗なく読め、作者の思いがあふれている文章である。

「身近な虫たちの華麗な生きかた」の筆者は、1学期に学習した「ダイコンは大きな根？」の稲垣栄洋氏である。これは身近な虫の話で、1年生にとっても興味をもって、抵抗なく読める文章である。今回は、「アブラゼミーセミの命は短いか?」を取

り上げた。1学期の学習を発展させて難易度を上げ、すべての段落を並べ替えさせるとともに、にせものの段落を一つ加えることで、どれが不要な段落なのか意見が分かるようなしかけがしてある教材である。これによって、互いの意見を検討する中で文章を吟味し、比較しながら情報を選択する力も身に付けさせたいと考えたのである。

「身近な虫たちの華麗な生きかた」は、科学的な読み物である。虫の生態を科学的な知識と論理で説明しているだけではなく、小さな虫に愛情を注ぐ筆者の思いにあふれており、文章の中のちょっとした言葉にもその思いが表れている。子どもの心の琴線に触れることができるであろう。

③ 指導観

言葉に注目させ、文章の構成と展開、さらに作者の意図をつかませたい。

今回の授業では、バラバラにした形式段落を並べ替えさせ、文章を復元させる手法を用いた。これは、パズルのようにゲーム感覚で取り組み、誰もが作業できることで、難しい内容でも主体的に取り組めるのではないかと思われる。

また、並べ替えの作業をすることで、言葉にこだわるとともに相互に関連する言葉を取り出して検討することになり、読み取りの力を鍛える一方法になると考えた。そして、段落相互の関連を考えることで、書かれた内容をまとめ、つなげて考えさせることになり、筆者の論の展開や作者の意図まで読み取らせることができると思われる。

さらに、自分で復元した並べ替えの順序について、なぜその順番に並べたのか根拠をあげて友だちに説明させるとともに、互いの意見を検討し、他者と交流しながら協力して問題を解決させたい。

(3) 単元目標

文章中の言葉にこだわりながら、文章の構成や展開、作者の意図をとらえる。

(4) 指導計画 (全3時間)

「身近な虫たちの華麗な生きかた」の文章構成を考えることによって、論の展開や筆者の意図をつかませる。

…3時間(本時2/3)

- ① 段落の並べ替えの順番を考える。(個人)
- ② 段落の並べ替えの順番を検討する。(小集団、クラス全体)
- ③ 筆者の意図を読み取る。(授業の振り返り 文章全体を読む)



授業の様子 班での話し合い



全体の場での発表

「構成と展開をつかむ ～身近な虫たちの華麗な生きかた～」

1 主眼

段落の並べ替えの順番を、根拠を明確にして説明し、検討することによって、段落構成や論理の展開、さらには筆者の意図を読み取ることができる。

2 準備物

ワークシート

掲示用の紙 掲示物 (本文)

3 指導上の留意点

- ①並べ替えの順序を、なんとなくではなく、必ず根拠を挙げて説明するように意識させる。
- ②不要な段落を検討させることで、筆者の意図に目を向けさせる。(対立点・生徒の反応予想)

G…おもしろいという感想は必要ない。

Aブラゼミとアブラムシの生き方という表現はおかしい。→書きぶりに着目

H…人間の話なので不要。また、ここで非必須アミノ酸の説明は不要。

→不要な情報選択・論の構成と展開に着目
③正解することよりも、自分の考えを説明し、友達を納得させることができただかどうかを大切にしたい。

評価

○文章中の言葉にこだわり、根拠を挙げて、自分の考えを説明できたか。

身近な虫の華麗な生きかた 稲垣栄洋
めあて

段落の構成や論の展開を考えて文章を復元し、作者の意図を読み取ろう。

(班で考えた段落の並べ替えの順序)

H 不要	G C B E A D F	1 班
G 不要	C H B E A D F	2 班
H 不要	G B C E D A F	3 班
 F	4 班
 A	5 班
 F	6 班
	7 班
	8 班
	9 班

G それにしても、アブラゼミとアブラムシとが、まったく逆の生き方を選択しているのがおもしろい。

(形式段落本文を書いた紙を黒板に張り、クラスの意見を聞いて張り替える。段落の構成や作者の意図を示す言葉に印をつける。)

(生徒の意見を取り上げて板書する) 例

- 段落構成・展開 ↑ 筆者の意図
 - ・言葉のつながり
 - ・指示語や接続語
- 根拠・具体例 ↓ 主張 新たな疑問 ↓ 追究
- 筆者の思い 虫を人と同じように見る
 - 華麗な生きかた 逆の生き方の選択
 - アブラゼミ… 導管 粗食 長生き 長寿
 - アブラムシ… 篩管 栄養豊富 短命

本時の流れ

- ①本時の学習の流れを確認する。

段落の構成と論の展開を考え、文章を復元しましょう。

- ◆前時に個人で並べ方を考えさせている。
- ②班で話し合い、形式段落を正しい順番に並べる。
- ◆班ごとに、話し合った結果を書かせて、黒板に掲示させる。
- ③各班の考えを説明する。

どうしてその順番になるのですか。

- ◆他の班の発表と自分たちの班の発表を聞き比べながら、違う点について発言を促す。(共通・相違点など比較して考えて聞く。)
- ◆黒板には、発表や話し合いのポイントとなる言葉を取り上げて書く。
- ④クラスで形式段落の並べかえについて考え、課題解決に向けて話し合う。
- ◆対立する点について取り上げて、検討する。

なぜそう言えるのですか。

- ◆正解すればいいのではなく、根拠をもって説明し、相手を説得することが大切であることを伝える。
- ⑤学習を振り返る。
- ◆振り返りプリントに、気付いたことや授業で学んだことを記入させる。

本校2学期授業公開の視点 : 「子どもたちが自ら考え、判断し、表現する場面が設定されているか」

- ・柳井中では、国語科がチームとして研究に取り組んでいるのがすばらしい。
- ・全国学力・学習状況調査等の結果を基に、自校の課題をとらえ、意図的・計画的に授業改善を行っていることは大切なことである。
- ・めざしたい授業（付きたい力）がはっきりとしている授業であった。
- ・各グループが並べ替えた短冊がすべて黒板に貼られた場面では、ずれや着目すべきポイントについて教師がまず話すのではなく、生徒に言わせるとよかったのではないか。

〈めあてと振り返り〉について

- ・めあては、学習意欲を引き出す、学習活動を促す（見通しをもたせる）ために大切である。振り返りは、授業をとおして、自分がどうなったか（メタ認知の視点）をしっかりと行いたい。学校によっては「まとめ」（学習内容について）と「振り返り」（自分の授業へのかかわりについて）を分けているところもある。

（４）授業後の考察

1年生すべてのクラスで授業を実施した。生徒のこだわりやつまずき、そして互いの意見を聞いての反応は、それぞれのクラスで違った。それだけに生徒の反応を見取り、その場で授業を構想していく教師の力量が必要とされると感じた。班での話し合いは活発であったが、全体の場での発表については更なるスキルの向上が必要である。

授業後の生徒の感想には、以下のようなものが挙がった。

- ・自分の意見を班で伝え合うことができた。班の皆で意見を伝え合い、班の意見をまとめて話し合うことができた。すごく楽しかった。
- ・班内では言えた自分の意見が、みんなの前では言えなかったのが残念だった。
- ・今回のように互いのお互いの意見が違ったとき、周りに流されずに自分の意見に自信をもち、しっかりその意見を発表することが大事だと思った。これからはしっかり自分の意見を言おうと思う。
- ・これからの学習に役立つと思ったことは、班のみんなで一つのことをまとめる力だ。いろんな意見が出てまとめるのが大変だった。学んだことは正解は一つしかないのに、たくさん意見が出ておもしろかったし、勉強になった。
- ・「それでは」「確かに」等の言葉に気を付けて読むと、段落の順番が分かりやすい。また、「何年もの」の「も」一字に注目した意見はすごいと思った。
- ・こんなに激しく討論したのは初めてだった。これほど真剣に考え、意見を出したのも初めてだった。結局自分の考えは間違いだったが、間違いも納得でき、よい討論もできたので悔いはない。文の構成と展開について大変よく学べた。

2学期末の生徒による授業評価では、「自分の意見を書いたり、発表したりする力が高まったと思える」が、1学期末の授業評価と比較して、0.1ポイント、並びに、「コミュニケーション力（聞く・伝え合う・話し合うなど）が身に付いたと思える」が0.3ポイント向上した。付きたい力を高めるためには、様々なスキルを繰り返し授業で取り上げるとともに、3年間を見通し、系統性を考えて授業を構想していくことが大切である。

今後は、自分の考えを表現し、他者と協働的に学ぶことや、「見通し」と「振り返り」を効果的に授業に位置付けることを意識しながら、さらなる学力向上を推進していきたいと考える。